

感謝と展望

学院長 世良田湧侍



お茶の水聖書学院(OBI)は、1991年の創設以来、今年で20年を数えるまでになりました。この学院が今日まで存続できたことを覚え主に感謝をささげたいと存じます。ここに至るまで、神の恵

OBI Bible Institute
お茶の水聖書学院
NEWS

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1-1
OCビル2F
TEL 03-3296-1005
FAX 03-3296-4641
e-mail office@obi-net.com
Web http://www.obi-net.com
お茶の水聖書学院
お茶の水聖書学院後援会

みに支えられ、支援いただきまし
た教会の牧師、信徒の方々、また
クリスチャン実業家の方々のお祈
りと尊いご支援を誠に感謝申し上
げます。次に、首都圏の各教会、
国内の支援教会のお祈りと学院生
をお送りいただきました牧師方へ
感謝をいたします。さらに、教室
としての部屋を提供して下さった
お茶の水クリスチャン・センター
への感謝、最後にこれまで指導に
当たってこられた理事、教師、ス
タッフ、学院生の皆様に感謝いた
します。
実は、お茶の水聖書学院には、

特別な感謝をあらわすことばがあ
ります。それは、「感謝、感激
感動」という3Kです。学院がス
タートして集まった学院生の間
に、教師への熱烈な感謝と学びの
感激と感動が渦巻きまわって、「3
K学院」と呼ぶようになりました。
一般社会では負の3Kが有名です
が、OBIではポジティブに言わ
せていただいております。

さて、将来を展望しますと前途
は多難です。過日、前学院長の召
天に続き、学院全体が落ち込みや
すい時ですが、この試練を乗り越
えて、次なる時代を構築するため
に、神の御霊のお導きに従うこと
が大切です。今後に向けて新しく
展望をする前に、「温故知新」、ま
ず、古きをたずねて新しきを知る
必要があります。すなわち開設以
来の学院のモットーは、①主に仕
え教会に仕える、②信徒の時代、
女性の時代、③聖書と聖霊中心の
教育活動などであります。

1. 主に仕え教会に仕える
1983年からレイマン・リー
ダーシップ・セミナーがお茶の水

クリスチャン・センター教育部の
中で開催されました。それは8年
後1991年にOBIの開設の土
台となりました。教会の主力であ
るレイマン(信徒)が、主に仕え
て牧師を支え、教会に仕えて教会
を盛りたてることを願って聖書教
育を受けるシステムです。

2. 信徒の時代、女性の時代
教会の信徒、特に女性信徒こそ
は隠れた資源であり、増田前学院
長は、「信徒は隠れた巨人である」
と日本の教会の宣教の担い手とし
ての信徒の重要性を指摘しており
ます。

3. 聖書と聖霊の指導に従う
「わたしの霊によつて」(ゼカリ
ヤ4・6)とありますが、OBI
は理事会、教師、学院生一同がみ
な聖霊の導きにお従いして進む団
体であると考えます。それは、O
BIの働きが継承されるための必
要な条件であります。聖霊は初代
から現代まで、福音宣教、教会教
育の原動力であります。私たちが
聖霊の権威のもとに服して学院の
将来の展開を祈るものです。

増田学院長の想い出を語る

三浦喜代子後援会会長

『みことばの饗宴に招くお方』

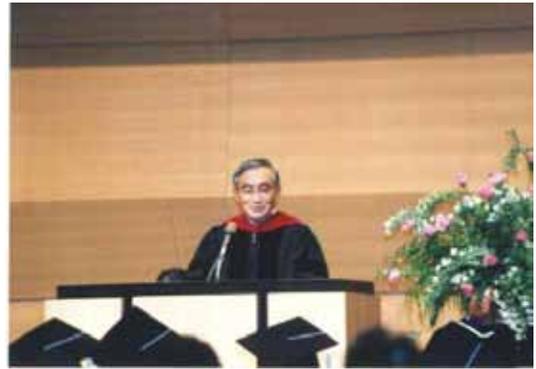
1991年4月、OBI開校を待ちかねて入学した私に、神様は、すぐにひとつのみことばと、一人の偉大な主の器との出会いを与えてくださいました。

みことばは『あなたが歩む一歩



一歩、私はあなたの前に道をひらく』（箴言4・12シリヤ語訳）であり、一人のお方は、このみことばをかみ砕いて教えてくださる増田誉雄学院長でした。私は先生の説き明かしにすっかり魅了させられ、本気でみことばを愛し、喜び、信頼する信仰へと導かれていきました。不思議にも、主は私の前に一歩、一歩新しい道を開いてくださいました。

先生は聖書への深い見識と豊富なご経験、多種多様なエピソードを織り交ぜながらみことばを説いてくださいました。それは、まるでおいしいお料理のように快く魂の胃の腑に落ち、信仰体力を高める滋養に満ちた糧となりました。いつもクラスメートたちと感嘆の声をあげながら感謝し合った日々でした。こうして、本科の3年間およびその後の研究科での17年



間、つまりご召天直前までの20年間、一ヶ月とお会いしない日はないほどに、光榮な師弟関係を続けさせていただきました。その他、折節に強調されたみことばがあります。

OBI2000年の危機には『主の山に備えあり』が掲げられました。2005年の15周年には『エベン エゼル ここまで主が私たち助けてくださった』を示されました。

20周年の準備中には、『ポスト2001』についてしきりに語り、『私はあなたがたのために立てた計画をよく知っているからだ。——主のみ告げ。——それはわざわざいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ』（エレミヤ29・11）をくり返され、また『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』（ゼカリヤ4・6）を強調されました。

先生はいちばん待ち望んでおられた20周年式典を見ずに天に帰られました。今も『信仰によって語って』おられ、先生を思い出すたびに私の『心はうちに燃えて』くるのです。OBIの礎となられた師に万感の感謝を込めて。



戸川借生同窓会会長

私は2001年4月にOBIに入学いたしました。

私は単立腰越独立教会の牧師の次男でしたが、サラリーマンとして定年が間近でした。

仕事をしながらの学びでしたので、授業は夜の授業ばかりでした。増田先生は夜の授業を担当されていますので、一度も増田先生に教えていただくことがありませんでした。お見かけする増田先生は柔和で知的な先生という感



じでした。

私は卒業1年前に仕事を引退しましたので、卒業後、教会総会で伝道師に任命されました。その後、現役牧師として元気でいた父が突然亡くなり、新米伝道師である私が教会の責任者になってしまいました。

それから2年後、教会総会で牧師に推挙されました。単立教会であるため、教会総会の承認で牧師に就任できますが、やはりしかるべき先生から按手をして頂きたいとの思いがありましたので、増田先生にご相談いたしました。

増田先生は「私が致しましょう」と思いもかけないことを仰ってくださいました。

2006年6月18日の父の日、教会に来て頂き按手式を行いました。

按手式のメッセージは、ヨハネ10章11節から「良い牧者」という題でした。

良い羊飼いが羊のために命を捨て



るように、牧師も羊のために命を捨てる覚悟を持たねばならないという内容でした。

印象的であったのは、増田先生の表情とその口調でした。柔和な先生からは想像もつかない厳しい表情と断固とした口調で話をされていた。

私は身が引き締まる思いで先生を見つめ、話を聞いておりました。牧師という職は命を賭けるべきであり、命を賭ける価値があるとい

言葉は私の心に刻み付けられました。

按手を受けてから4年半が経過しようとしています。主のために、教会のために、増田先生のお言葉を忘れることなく励んで参りたいと思います。

故増田学院長略歴

昭和5年、東京都生まれ。

東京聖書学院、ホートン大学、アズベリー神学校、ウエストミンスター神学校卒。

東京キリスト教短期大学講師を経て、お茶の水聖書学院学院長。エバンジェリカル・コングリゲーションナル・チャーチ（ECC）経堂めぐみ教会牧師。ワールドビジョン・ジャパン理事。ケズイック・コンベンション東京副委員長。著書『きらめきの旅立ち』『新聖書注解マタイの福音書』訳書『私を強くしてくださいる方によって・ピリピンへの手紙講解』『ケズイック52週』など多数。

学窓トピック

聖書科・音楽科

●2010年10月25日(月)お茶の水聖書学院20周年記念の集いー感謝と展望ーが執り行われました。約130名の参加。20年の歩みを導かれた神様と、多くの方々への支援に感謝する一時となりました。

●12月9日(木)恒例クリスマス会が実施されました。教師、学生合わせて、参加者41名が与えられ、主のご降誕を祝いました。

●OBI研修ツアー(イスラエルの旅11日間)2011年3月8日(火)～18日(金)の日程で開催いたします。在学生希望者には単位(2単位)が認められます。

なお、ドイツ・スイスの研修ツアーは9月下旬に予定しております。詳しい案内は今しばらくお待ちください。

●本科卒業予定者の研究指導が実施されています。田中美枝子、倉内一寿、西口修八、小宮明子の4名の研究の祝福のために覚えてお祈りください。

●10月9日(土)に、浦和福音自由教会の音響の良い会堂とパイプオルガンをお借りして、第11回教会音楽デーを行いました。20数名の方々がお集まりくださり、奏楽者のための学びのひとときを持ちました。

明けて、2011年2月22日(火)、19時からOCCCFホールで、恒例の学年末発表会を開催いたします。教会音楽を専攻されている学院生の方々の一年間の学びのまとめとしての賛美・演奏を聴きにいらしていただければ幸いです。



2011年度前期開講科目

	月	火	水	木	金	土
11:00 ～ 12:30		信仰生活のための 聖書教理入門(*) 福井 誠		旧約聖書の思想と概説 1(*) 西 満	コリント人への手紙 I 山口勝政	
13:30 ～ 15:00		マタイの福音書解説 (*) 世良田湧侍		使徒の働き(原始教会 の歴史がわかる)(*) 藤原導夫	教会史 宗教改革の歴史 横山武	
15:30 ～ 17:00		聖書原典講読 野口 誠		ヨエル・ヨナ・ナホム・ ハバクク書解説 水口 功	創世記解説 稲垣緋紗子	
18:30 ～ 20:00		「魂への配慮」を学ぶ 堀 肇		※	人物に学ぶ(モーセの 生涯を中心に) 河村従彦	

・2011年3月(イスラエル)、9月(ドイツ・スイス)予定の海外研修ツアーは、2単位認定科目扱いとなります(在学生)。詳細は、事務局(03-3296-1005)までお問い合わせください。

・(*)の科目は必修科目になります。

クラス報告 『ヘブル書』

担当 河村從彦

クラスを開講するときはそのクラスがどのような内容なのかを知らせするシラバスの目標の欄に、以下のように書かせていただきました。「帰納的な聖書の読み方を基本に、文脈・背景・人物に着目しながら聖書をいっしょに読んで行きます。ヘブル人への手紙を取り上げ、みことばが新約の神の民に何を語っているかをいっしょに考えます」。

クラスは知識をノートにするだけでなく、教師を含む参加者全てが、自分の信仰のあり方を問い直し、また作り上げて行く場です。まず、聖書のその日の内容を、チャートを使うなどしてまとめて整理します。次に、文脈を大切にしながら、著者が何を語ろうとしたのか、神さまが時代を越えて現代のわたしたちに何を語っておられるのか、に焦点を当ててメツ

セージをくみ取って行きます。神学的な視点だけでなく、宣教学(文化人類学)的な視点、牧会カウンセリング的な視点など色々な考え方を柔軟に用いながらディスカッションをします。そこでは聖書の箇所にして様々なテーマが出されます。例えば、信じるとは、恵みとは、信仰と人間性、十字架の意味、形と意味の違いなど、とても楽しい、豊かな時間になります。中には感性豊かなコメントや急所を突く質問もあり、教師が教えられ、恵まれることもよくあります。夜のクラスなので、一日の仕事を終えて駆けつけてくださる方々、夕方からご自宅を出て来られる方々などが参加し、学ぶことに対しても意欲的です。教師も参加者の皆さんも、自分が、何を、どう信じて生きるのかを共に学び合う場となればと願っています。



「ヘブル書を受講して」

本科三年 田畑勝敏

2010年4月から河村先生のこの講義を受講しています。メンバーは7名です。新しい人を迎えました。毎週金曜日の夜に、職場から、自宅から、と受講を楽しみに、期待感をもって集まります。難解なヘブル書を実にわかりやすく丁寧に解説して下さい、主の

恵みを実感できます。講義の特色は、まず、帰納的文脈的読み方を学びます。書全体の観察、章名付けをし、大区分、中区分、小区分に分け、名前付け、階層化、チャートへとまとめ、その書全体の鍵が何か、著者の言いたいことは何かを推測します。この作業は全体理解とハイライトを知るのに大変役立ちます。

次に、幅広い周辺学問からの学びです。先日は、文化人類学から、「宗教・意味」と「文化・形態」のマトリックスを作り、この書の前半の山場、6章6節、罪に再び堕ちた人達に許しはあるのかにつき、議論をしました。新しい視点で学べ、大変よく理解できました。そして、講義の進め方が、ディスカッション方式ですので、活発な意見交換のなかにも、心地よい緊張感を伴っています。メンバーの交流も活発で、最終講義後の懇親会を皆、楽しみにしています。

20周年報告特集

3期卒 有田貞一

昨年10月25日(月)に「創立20周年記念の集い」が持たれました。第一部(感謝礼拝)は藤原副学院長の司会によって進められました。堀先生の祈禱に続き、「故増田誉雄学院長を偲んで」と題して、三浦喜代子理事から話がありました。一年半をかけてなされた準備会に増田先生が毎回出席されたこ



と、その熱心と情熱、寛容と忍耐に満ちた先生の人柄が紹介され、これからのOBI(ポスト20)に對して、主が与えて下さる「将来と希望」(エレミヤ29・11)を共に祈っていきましようという力強い内容でした。続いて、世良田学院長から「OBI創立20年の感謝と展望」と題して、理事長・学院長就任のご挨拶がありました。OBIは主のもの、そして皆のもの

であること、「感謝、感激、感動」の学院であること、そしてOBIを支え、励ましてくださった各教会とOCCへの感謝が述べられました。これからの展望として、引き続き「主に仕え、教会に仕える」基本理念の踏襲、教会の成長と救霊の働きのために、信徒一人一人が聖書を学び、宣教協力者として奉仕することの重要性が語られ、御霊に導かれたリバイバル的な働きがなされますようにとの話がありました。続いて、平松氏が「母校OBI学び舎を語る」と題して、

感謝を深い感動と共に話されました。次に「写真で見る20年史」がスクリーン上に紹介され、感慨深い時となりました。

続いて、OCC理事長村上先生から「すべての良い働きにふさわしく整えられた者となるために」(IIテモテ3・14・17)と題してメッセージがありました。聖書は誤りなき神のことばであること、そして聖書は①救いに関する知恵を与える、②人間がどう生きるのかという規準を与える、③良い働きのために十分に整えられた人を育てる。これからの教会はレイマの働きにかかっていると励ましがりました。

次に、山崎製パン飯島社長からOBI支援活動の経緯、そして童謡「かごの中の鳥」を例えに、現状の閉塞感の中に閉じこもるのではなく、原点に戻るべきとの示唆に富んだ祝辞がありました。そして前東京女子大学学長湊氏からの祝辞があり、日本大学審査委員会



の審査基準の観点からのお話、そしてビジョン、ミッション、パッションの大切さ、さらに立地を生かして若者を受け入れていくべきとお話がありました。その後、故増田誉雄学院長、故佐野謙次理事に感謝状が献呈され、横山参与の祝辞で閉じました。

第二部は同窓会会長の戸川氏の司会の下、立食パーティの形で進められ、バリー・ロス博士(現アンダーソン大学教授)から祝辞がありました。1989年すでにOBIという言葉が使用されていた

というお話が披露され、創立に深く関わって下さったことに感謝しました。その他にも多くの方々の祝辞が述べられました。紙面の都合で割愛させていただきます。

6期卒 米田由起子

昨年6月の第一回実行委員会で、「記念の集い」は2010年10月25日(月)と決まり、その日に向けて準備してきました。その準備の期間中に増田誉雄先生は、肺ガンの再発、抗ガン剤治療、その後、体調を崩され、9月4日に召天されました。実行委員会のメンバーは、茫然としました。しかし、20周年を祝ったあとの歩みを描いておられた増田先生のことを思い、10月25日の「記念の集い」に向けて、気を取り直し、準備を進めていきました。また夏の暑い中、「記念誌係」による入念な校正により、素晴らしい記念誌が出来上がり、「記念の集い」で皆様にお持ち帰りいただくことがで



きるようになりました。

そして、いよいよその「記念の集い」の当日、25日を迎え、受付に立ちました。にこやかに、ぞくぞくとお客さまがおいでくださり、あつという間に11時の第一部感謝礼拝の開始の時間になりました。私は、少し遅れてチャペルに入ると、三浦姉が増田先生を偲んでの思い出をお話しされていました。増田先生は、今年6月4日の実行委員会までは、みことばのお勧めをなさり、OBIの夢をい

つもの口調で話しておられました。この大切な「記念の集い」におられない淋しさが胸に広がりました。世良田師の「感謝と展望」。卒業生の平松兄が話された、増田先生をお見舞いした時の「御霊の実は・・・」のみことばが印象的でした。「御神はわが羊飼いの音楽科の先生の讚美に胸が熱くなりました。村上先生のメッセージ、飯島延浩氏(山崎製パン社長)、湊晶子先生の祝辞……。ユニークな語り口で、感謝、励まし、チャレンジをいただきました。

第二部の感謝祝会は場所をロビーに移し、会食・懇談で、美味しいものをいただきながら、先生達との交わり、初めてお話しする同窓生、懐かしい同窓生、久しぶりに顔を会わせた同窓生との交わりが与えられ、話しが弾みま

した。また遠くアメリカからロス先生ご夫妻も来てくださり、感激感謝でした。感謝会でのお祝いの言葉も感動でした。みなさんの思

い出と感謝の中に増田先生の存在がありました。たくさんのお祝辞をいただき、これからのOBIのビジョン、チャレンジが与えられ、希望をいただきました。

「創立20周年記念の集い」に、130名の方が集ってくださいました。実行委員のひとりとして関わらせていただき、感謝でした。これからも許される限り、OBIに集い、学ばせていただきたいと思えます。『主に仕え教会に仕える』をモットーとして。



OBI会計報告 (2010年8月21日～2011年11月16日)

2010年度もご協力いただきありがとうございました。

◎後援会献金

●後援会維持会献金

有田 貞一 有田美榮子
飯島多塚夫 猪狩 友行
小野沢恵子 金本 悟
木下 順子 国東 恵子
窪井 節子 小林喜久男
斉藤とし子 佐藤 敬
増田 誉雄 松岡 常子
須子 都 三浦喜代子
世良田湧侍 田中 恵子
中川 和代 浪井 弘子

西 満 平松 庸一
福井 誠 藤原 導夫
増尾 善文 宮本三枝子
三浦 秀彌 目崎由紀子
森 登 森本 馥
依田 和子 植木 朋子
芳賀 功 中島總一郎
日名 富子

●後援会協力献金

脇坂 勇 中山キリスト教会
佐野 盾一
●20周年記念献金
猪狩友行・多佳子 丸山 悟司
K・ザークル(WGM)

2010年度 OBI 半期会計報告 (2010年3月～2010年8月) 単位千円

当期収入	金額
授業料収入	3,600
助成金収入	3,000
献金収入	10,186
その他収入	239
収入計	17,025
当期支出	金額
学事支出	3,280
行事支出	35
経費支出	6,966
その他支出	320
支出計	10,601
当期収支残	6,424

北本福音キリスト教会

ベアンテ・ボーマン 林 博之

小林 喜久男 黒澤すぎの

芳賀 功 中野 覚

窪田 淳子 多胡 元樹

甲斐 博 ゲリー・パウマン

中平 悦子 松下 瑞子

鬼京 由紀子 黒木 安信

糸満 ミユキ 山下 正雄

松下 和弘 飯島 勅

田中 君恵 島塚 光

三友 康子 島塚 啓子

OBI同窓会 西 満

中島 總一郎 西脇 達子

伊藤 淑美 横山 武

原 正子 絵鳩 彰

杉山 礼子 小野沢恵子

阿部 幸平 田中 恵子

藤掛 牧子 東 利雄

平松 庸一 増尾善文・邦子

中村 良子 加茂 康一

脇坂 勇 宮内 芳枝

中城 昭治 山口 松子

田畑 勝敏 田中 美枝子

飯島 延浩 聖書考古学資料館

湊 晶子 堀 肇

村上 宣道 飯塚 俊雄

三木 晴雄 小金井教会

峰野 龍弘 芳賀 正

小幡 史郎 増田 慶子

片山 信彦 依田 和子

阿部 信夫 石川 洋一

石田 敏則 青木 比郎

◎OBI献金

●協力献金

中島總一郎 山口 松子

中島 和子 鬼京由紀子

安藤 谷子 阿久津千枝子

倉内 一寿 田畑 勝敏

小林 享子 篠田 一志

川端 安弘 石井 由紀

町田 恵子 松本 逸子

戸川 偕生 横田 孝子

新井 由美 シムス由季子

萩原 滋 藤村 陽子

西口 修八 高野 富男

宇田川智裕

●感謝献金

小平聖書キリスト教会